

# 小学2年生における読み書き習得の影響因

音韻意識と形態素意識の比較から

○室谷直子 井上知洋 細川美由紀 前川久男  
 (常磐短期大学) (聖学院大学人間福祉学部) (茨城大学教育学部) (いわき短期大学)

KEY WORDS: 読み書き発達 音韻意識 形態素意識

## 【目的】

音韻意識と形態素意識は、読み書きの発達に重要な役割を果たすとされるメタ言語意識である (Deacon & Kirby, 2004)。日本語を母国語とする子どもを対象とした研究においても両者の関与が指摘されており、音韻意識は読み書き発達の早い時期に特に重要で、形態素意識は読み書きの発達とともにその重要性が増大していく可能性が示唆されている (Muroya et al., 2017)。そこで本研究では、読み書きを体系的に学習し始めて一定期間を経た小学2年生後半の時点において読み書きで低い遂行を示した子どもについて、小学1年生時点のメタ言語意識の特性を個別に検討することを目的とした。

## 【方法】

### 1. 参加者

通常学級に在籍する小学1年生130名(男児63名, 女児67名, 平均月齢80.3歳〔1年生時〕; 97.7歳〔2年生時〕)を対象とした。学習上または行動上の特別な教育的ニーズに基づく支援を受ける子どもは含まれなかった。

### 2. 課題

2-1 メタ言語意識: メタ言語意識を測定するため、音韻削除課題(音韻意識)および単語類推課題(形態素意識)を実施した。単語類推課題は、「寝る」を「寝た」とするとき「走る」はどうなるか(「走った」が正解。)のように接辞を操作させることで形態素意識を測定する課題であった。2-2 読み書き技能: ひらがな単語読み流暢性、ひらがな非単語読み流暢性、漢字の読み正確さ、漢字書字、テキスト読み流暢性、読解の6課題を実施した。

### 3. 手続き

全ての対象児に対し、メタ言語意識課題を小学1年生6月に実施した。さらに同じ対象児に対し、小学2年生11月に読み書き技能の課題を実施した。

### 4. 分析

小学2年生における読み書き技能の遂行において、実施課題の2つ以上で5パーセント以下であったケースを、「読み書き低成績児」として抽出した。そして抽出された各ケースについて、1年生春におけるメタ言語意識課題の標準得点を算出し、ケースごとの特徴を比較検討した。

## 【結果】

### 1. 読み書き低成績児の抽出

対象児130名のうち、2年生時点の読み書き技能の遂行が2項目以上で5パーセント以下であったのは、10名(7.7%)であった。基準以下であった項目数は、2項目であった者4名、3項目であった者2名、4項目であった者1名、5項目であった者3名であった(表1)。また、実施した6課題のうち読み流暢性(単語・非単語・テキスト)および漢字の読みの正確さでは、基準以下の子どもが6名以上いた。残る2課題のうち読解で基準以下であったのは4名、漢字書字で基準以下であったのは3名だった。

### 2. メタ言語意識の遂行

抽出された10名の読み書き低成績児について、1年生の時点におけるメタ言語意識課題のzスコアを図1に示した。両スコアがいずれも平均以下であった8名のうち4名(A,

B, C, D)は相対的に音韻削除が低く、残り4名(E, F, G, H)は相対的に単語類推が低かった。また参加者I, Jはいずれのスコアも低くなかった。

表1 成績が5パーセント以下であった読み書き技能(×印)

参加者	単語流暢性	非単語流暢性	漢字の読み正確さ	漢字書字	テキスト流暢性	読解
A		×		×		
B	×	×	×		×	×
C			×			×
D	×		×		×	
E	×	×				
F	×	×	×		×	×
G			×	×		
H	×	×	×		×	
I	×				×	×
J		×	×	×	×	×

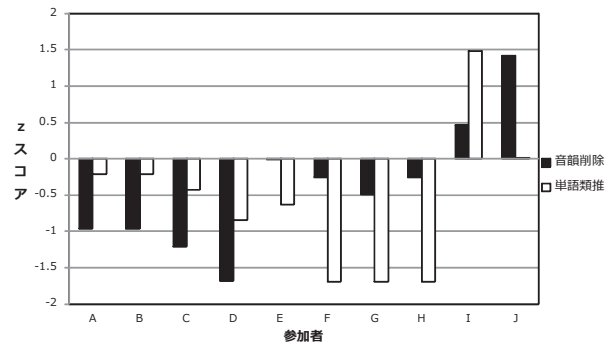


図1 読み書き低成績児のメタ言語意識

## 【考察】

2年生の時点で読み書き技能に困難さがみられた10名は、入学当初の時期のメタ言語意識課題の遂行状況に基づき大きく3つのグループに分類された。読み書き習得の初期においては特に音韻意識の重要性が指摘されるが、本研究の結果から、音韻意識に大きな問題がなく相対的に形態素意識の低さが目立つ子どもが一定数いたことから、形態素意識が読み書き発達において独立して役割を果たす可能性が考えられた。一方参加者Jでは、単語読み流暢性以外の5項目で5パーセント以下であったにも関わらず音韻意識は平均を大きく超えていた。このことから、読み書きの背景となる要因の多様性もうかがわれた。今後、メタ言語意識を含む複数の背景要因を明らかにすることで、入学当初から後の読み書きのつまづきを予測したり、予防的介入を考案することが可能になると考えられる。

## 【文献】

- Deacon & Kirby (2004) Morphological awareness: Just "more phonological"? The roles of morphological and phonological awareness in reading development. *Applied Psycholinguistics*, 25, 223-238.
- Muroya et al. (2017) The role of morphological awareness in word reading skills in Japanese: A within-language cross-orthographic perspective. *Scientific Studies of Reading*.
- (MUROYA Naoko, INOUE Tomohiro, HOSOKAWA Miyuki, MAEKAWA Hisao)